



佐久 祐司 議員

災害時の情報インフラは

**有線放送を重視
電線、基地局破壊時は**

災害無線が最終

質問・・・災害時の町民に対する情報伝達手段として、どのような方法を考えているか。

町長・・・有線放送を重視する。震災で電線が切れたり基地局が壊れた場合は、防災無線を最終手段として考えている。

質問・・・現在有線放送事業は毎年赤字であるが、それに変わる情報インフラは考えているか。

町長・・・もっとも安いインフラで町民に40年間親しまれてきた有線放送を引続き重視していきたい。

総務課長・・・公会計は一般企業の会計と違い損益部門と投資部門の合算での会計、また減価償却の

概念がないので、赤字という表現が妥当かどうかは再確認していただきたい。

料金の徴収は、未加入者との公平性を保つために行っている。有線放送は町から町民への重要な情報伝達手段であり、見かけ上赤字であってもやめるわけにはいかな

質問・・・ツイッター、フェイスブックなどの新しいメディアの活用は考えているか。

町長・・・ハードインフラが破壊された場合、ツイッターもフェイスブックも役に立たない。災害時の情報インフラのベースは有線放送プラス防災無線と考えている。

質問・・・災害時だけでなく、町からの情報発信としてツイッター、フェイスブックの活用を考えているか。

町長・・・町内でネットを利用している人は3割程度。諏訪市、岡谷市のテレビを使った行政チャンネルも視聴率は10%を切っており、ツイッター、フェイスブックの利用でのコストパフォーマンスは難しい。

□その他の質問

*パノラマ植栽事業について



加々見保樹 議員

**高齢者・障がい者福祉政策
に対する基本的考えは**

**要望を調査し
可能な範囲で実現していく**

質問・・・高齢者クラブ加入者減少への対応策は。

町長・・・対象者5,000人に対し加入者は3分の1強。高齢者クラブに入る意義を理解してもらうよう地道に努めていく。

質問・・・団塊の世代が加入時期となり価値観の多様化からクラブの変革を迫られるのでは。

町長・・・団塊の世代は、65歳を過ぎても現役意識が強い。ぜひ、高齢者クラブに入ってまちづくり

に協力していただきたい。
質問・・・すずらん号と福祉輸送サービスの中間的交通手段を検討する考えは。

町長・・・福祉輸送サービスを拡大し、利用料は一律500円とした。現在利用頻度をモニター中。
質問・・・必要に迫られてという事情もあるが、高齢者が危険な運転をするケースが見受けられる。「高齢者運転免許自主返納支援事業」を行う考えは。

町長・・・生活に困らないよう福祉輸送サービスを充実させるとともに、事故防止策を交通安全協会と連携して進める。

質問・・・65歳未満の障がい者に対する継続的な支援は。

町長・・・住民福祉課の相談窓口で対応している。

質問・・・成年後見制度・権利擁護等の相談も可能か。

住民福祉課長・・・社会福祉係が一時的に相談を受けている。全ての相談には応えられないので、6市町村で障害者自立支援センター「オアシス」を運営し対応している。

質問・・・障がい者の雇用促進の指導を町として行っているか。

町長・・・関係機関を通して企業をお願いしている。

□その他の質問

*メンタルヘルスについて